

令和4年度 第4回水道モニター レポート

テーマ：あなたが知りたい水道の情報を、周りに伝える方法について

- ・水都だよりに水道局の職員に係る情報を載せて、身近に感じてもらう。
- ・複数の広報紙（定期刊行物）にも情報を記載する。水都だよりは広報紙に折り込まれており、情報量が多いため、じっくり読む時間が作れない。
- ・未就学児も水について興味があるようなので、未就学児でも見学／参加できるようなイベントを企画して欲しい。内容については、広報紙の外、Line等で通知して欲しい。
- ・水道の情報を調べるとき、ホームページをよく使用するので、内容を充実させるとよい。よくある質問などを充実させれば、多くの人が知りたい水道の情報を入手できる。知りたい内容と伝えたい内容では性質が別かと思うが、知りたいときにアクションを起こすであろう場所に、伝えたいことを目に付くようにすれば効果的である。
- ・新しい広報の手段を検討するのも必要だが、今使用している広報紙、Line、Twitterの精度をあげ、改善していくとよい。
- ・テレビの台風情報にあわせて、水を溜めておくなどの告知を行う。
- ・プッシュ型の広報活動として、コンビニのレジ横やスーパーのサッカー台などにチラシを置くなど、生活動線に密着した広報を行う。
- ・自宅を訪問しての広報活動。水道部だけでなく、福祉部や警察などとも連携し、高齢の方を見守ることや特殊詐欺防止の啓蒙活動など、より安心して暮らせる地域の実現を目指す。
- ・水道について、小学校での授業に盛り込み、実際に現場へ行く社会科見学の機会を設けるなど、子供に興味を持ってもらう。子供が興味を持てば、大人も興味を示すと思う。
- ・水戸出身の人に水道水のPRを依頼する。
- ・水道部が作成するペットボトルのラベルにホーリーホックとロボッツのキャラクターを使用しているので、選手ともコラボしてPR動画を配信すると広く認知されるのではないか。
- ・水道水を沸かしてポットで飲む、加湿器に水道水を利用するなど、それらの商品を取り扱う量販店と協力し、チラシやQRコードのポップを飾ってもらう。
- ・市民の目に留まる形でPRし、コストを抑える方法として、以前に首都圏8水道事業体が合同で水道水に係るキャンペーンを実施したことを参考にできるのではないか。
- ・直接人から説明をしてもらうなど、コミュニケーションをとると関心を持つことができる。見学の機会を増やしたり、日常生活で使用する水の情報などを発信してはどうか。

※内容が重複しているものは、集約して記載しております。

その他の意見

- ・塩素が入っているメリット／デメリットを示す。
- ・水とミネラルウォーター、ウォーターサーバーなどとのコストパフォーマンスの比較。
- ・那珂川上流の市町村とコラボ（給水拠点の写真をとってスタンプラリーなど）
- ・水道水を使った写真コンテスト（びっくり水など）
- ・川柳コンテストや職員のつぶやきを紹介する。
- ・水都だより 47 号の決算についての説明がわかりづらく、読むのが面倒になってしまう。家計に例えているが、余計何がいいたいのかわからなくなっている気もする。「収入を増やしたい」「水道を使って欲しい」ということをダイレクトに伝えたほうが良い。
- ・ミニクイズはとても良い内容であるため、もっと広報の前面におしだしては。
- ・NHK 放送局の「いば6」等でPRしてもよい。
- ・[節水]と[水の大切さ]という部分について、「水戸市は水源が豊かで、必要以上の節水の必要は無く、むしろ水を使うことで生活を豊かにして欲しいと思っています！」くらいの宣言をすると、水道水への考え方も少し変わってくるのではないかと思った。
- ・上質な水を取ると健康に良いなど、水に関する興味をわかせるのはどうか。
- ・産業祭だけでなく、小中学校の子供たちに配布するなど、もっとたくさんの人に、実際にペットボトルの水を飲んでもらえる機会があればよい。
- ・イベントを開催するときには、残留塩素の測定実験を行うなど、参加者が体験できるものと身近に感じることができる。